

東京秋工会会報

# KANASA

金砂



VOL. 2



東京秋工会

秋田県立秋田工業高等学校同窓会 東京支部

■ も く じ ■

■ごあいさつ	2
■秋工創立90周年	3
■会務・会計報告	4
■秋工バレー部の一時代	5
■秋工ラグビー部の健闘を祈る	6
■サムライのH君	7
■異色の先輩を訪ねて	9
■書籍紹介	11
■編集後記	12
■賛助広告	13

## ■ ごあいさつ ■



東京秋工会会長 澤木 誠一 (26 E)

皆様お元気ですか。残暑お見舞い申し上げます。

私は昭和20年に入学し、昭和26年に卒業致しました。そうです、学制改革で新制中学、新制高校と合計6年間在学致しました。そして、専門過程を6年間受けましたのでお蔭様にて相当に高いレベルの専門教育を受けることができ、今でも感謝の気持でいっぱいです。

この度母校の90周年を迎え、青春時代の6年間の色々な事が懐かしく思い出されます。当時の思い出の一番のことは、何と言っても3年連続全国優勝を達成したラグビーの活躍でしょう。当時はラグビー部員のみならず全校生徒がラグビーを学んでおりました。そして、応援歌です。ラグビー部は勿論として各学科毎に色々な応援歌があり、その練習には多くの時間が当てられ、皆良くそれに参加したものです。今は校舎も新しくなり、昔の面影は少なくなりましたが、各科の応援歌は今も盛んに歌われているのでしょうか。

私共は6年間同じ学校にいた関係上、同級生は勿論、先輩、後輩と幅広く交流を深めることができましたが、本当に先輩のありがたみを知ったのは就職してからであり、県外で同窓会に出席するようになってからです。しかしながらその同窓会は全員同じ会社の者同士であった為か、その後自然消滅したことを知らされ、同窓会を継続するのは簡単でないことを自覚致しました。

現在秋田県には約60ばかりの高校があり、東京地区にはその同窓会支部が46あります。

東京秋工会は戦後まもなく結成され、平野雷治初代会長、谷藤正三会長を経て現在私が会長職を承っております。母校90周年にあたり、東京秋工会を益々発展すべく役員一同微力ながら努力させて戴いております。

ところで、「同窓会に参加することに何かメリットがあるのか」と良く聞かれます。一番のメリットは、何ととっても学校や同窓生から色々と情報が得られることです。現在は情報過多の時代と言われておりますが、こうした情報をいち早く取り入れ活用することが人生を豊かにするため必要不可欠なことです。しかしながら、我々秋工生には人前に入るのが億劫で、外に出たがらないという人が多いようです。しかし、同窓生は皆仲間です。同窓生同士ということであれば何かと共通の話題があり、知らない同士がすぐに心を開いて話し合えるようになります。この場合、同じ会社の同窓生よりもむしろ他社の同窓生との話し合いがより参考になります。「異業種の会」が盛んに作られているのも理由のあることです。

同窓会を活性化するためには、総会出席者多くすることも重要です。私共は今後とも、この会報「KANASA」を媒体として皆様に種々の情報を提供して参りたいと思っておりますが、どうぞ今回の総会には多数の方々のご出席をお願いする次第です。

## ■ 秋工創立90周年 ■

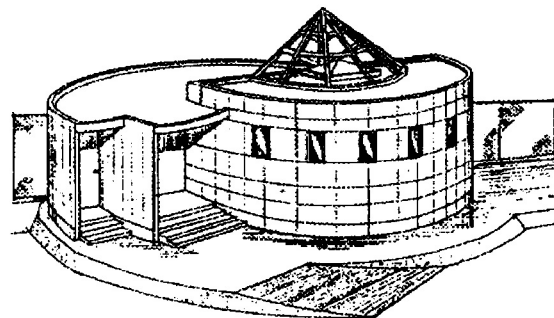
私達の母校である秋田県立秋田工業高等学校は、明治37年(1904)秋田工業学校として発足、本年で創立90周年を迎えることとなりました。

来る10月1日,2日にはその記念式典が母校で催されることとなっております。その詳細につきましては、同窓会本部からの通知により皆様には既にご承知のことと存じます。

東京秋工会におきましても、秋工同窓会の東京(関東地区)支部としてこの式典に参加することが決定しております。また、式典前日の9月30日には、東京秋工会ゴルフ同好会の有志20名が、同窓会本部の有志20名程と合同ゴルフコンペを行うことも決定しております。この90周年に関連した種々の催しが、両者の交流をより深めてくれるものと期待しております。

### ●同窓会記念事業にご協力ください。

既にご承知のことと存じますが、創立90周年の同窓会記念事業として母校内に屋外シャワーハウスの建設が計画されております。皆様のお手許にご寄付のご依頼及び振替用紙が行っていると思っておりますが、趣意書等をよくお読みの上、在校生諸君のために何卒ご理解とご協力の程をお願いいたします。



シャワーハウス完成予想図

### ●創立90周年記念式典に参加希望の方、ご一報ください。

式典は、平成6年10月1日,2日に母校にて開催されます。

現在約二十数名程の方が参加を予定されておりますが、もし参加ご希望の方がいらっしゃいましたら、東京秋工会本部・事務局までご一報くださいますようお願いいたします。

東京秋工会本部・事務局 (澤木萬國特許事務所内)

〒105 東京都港区虎ノ門1-18-1 第10森ビル 8F

電話: 03-3501-0937

澤木会長宛

### ●秋田工業同窓会本部との交流ゴルフコンペが行われます。

例年6月と11月の2回行われていた東京秋工会ゴルフコンペを今年度は1回のみで開催とし創立90周年式典の前日に秋田で行うことといたしました。場所は椿台カントリークラブ、現在20名の申込が確認されています。また、秋田からも20名の参加があり結果的には両者の交流コンペという形で行われることとなりました。

東京秋工会ゴルフ会 担当幹事: 三平俊悦 (39A)

連絡先 / (株)新井組内 〒150 東京都渋谷区恵比寿4-3-3

電話: 03-3442-8411



# ■ 会務・会計報告 ■

## ● 会務報告 ●

(平成5年10月～平成6年7月)

年	月	日	内 容
平成5年	10月	20日	幹事会(澤木事務所)
		22日	東京秋工会総会(於 東京プリンス)
	11月	2日	秋田中央高校記念式典(東京会館) 澤木会長出席
		12日	第5回東京秋工会ゴルフコンペ(金乃台カントリークラブ)
	12月	2日	秋高連忘年会 澤木会長他有志出席
平成6年	1月	18日	秋田県知事主催新年会(グランドヒル) 澤木会長他有志出席
		24日	秋田市長との懇談会 澤木会長他有志出席
	2月	26日	秋高連役員会 澤木会長出席
	3月	26日	秋高連委員会 澤木会長出席
	4月	10日	秋田県人会総会 澤木会長出席
	6月	4日	東京雄水会(秋田商業同窓会東京支部)総会 澤木会長出席
		6日	幹事会(澤木事務所)
		17日	秋高連委員会 澤木会長出席
	7月	19日	秋高連全体総会 澤木会長他有志出席
	28日	秋田市長との懇談会 澤木会長他有志出席	

## ● 会計報告 ●

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
*前年度繰越金	103,504	*総会案内・ハガキ,切手,封筒代	54,685
*年会費(136人)	408,000	・印刷代	8,240
*総会費	339,000	*「KANASA」印刷代	122,100
*寄付金・同窓会本部	10,000	*総会費・東京プリンス	299,450
・関西支部	10,000	・酒代	16,855
・ " 高橋氏	10,000	・東京プリンス謝礼	10,000
・東京雄水会	10,000	*年会費・広告料振込手数料	6,740
・播磨氏	10,000	*秋高連年会費	10,000
・秋田市東京事務所	10,000	*東京雄水会御祝儀	10,000
*「KANASA」広告料	146,000	*関西支部御祝儀	10,000
*雑収入(会長)	5,000	*東海支部電報代	2,150
		*幹事会会食費(2回)	33,000
		*秋田魁新報広告費	30,900
		※次年度繰越金	447,384
●収入の部合計	1,061,504	●支出の部合計	1,061,504

〈会員寄稿〉

## ■ 秋工バレー部の一時代 ■

三浦 満夫 (28 E)

秋工という文字とひびきに懐かしさを感じるのは私だけだろうか。学び育った母校を思う心は万人に共通と思う。

私は、昭和25年4月難関を突破し電気科に入学した。(新制高校最初の入試で、国、数、社、理、4教科の全県一斉テストが実施され、その点数により志望校を選ぶという方式で、普通科・商業科に比べ工業科、特に秋工の各科は難関と言われていた。)部活動は、中学からやっていたバレー部へ入部。

入学時の学校は実習場が新しいくらいで、創立以来の古びた校舎であった。しかし緑も多く、校門を真っ直ぐ行くと右手に蓮の花の美しい池があり、休み時間には池のほとりで級友と互いの悩みや夢を語りあったものである。

バレーコートはテニスコートと並んで池の近くにあり(後に現在の陸上競技場の方へ移設)新入部員は如何にして池に落とさないよう俊敏にボールを拾うか競争させられた。

ボールが貴重品で、古いものを大切に使っていた。当時のボールはチューブ入りで皮を縫い合わせたものであり、練習中に糸が切れチューブが飛び出したりで、歪のボールで練習していた。一年生は糸の切れたボールを家に持ち帰り縫い合わせ、翌日に間に合わせるといふ具合。お陰で、裁縫も上手になったものである。

大会の日は一年生各人がボール一個ずつ責任を持たされ、無くなると先輩にとやされるので他校のボールを獲得し数合わせをするといふ、各校一年生共通の責務であった。

思い出の一つに、練習帰り空腹で倒れそうになるのを救ってくれたのが、店名は忘れたが北校前のパン屋だった。コッペパン一ケ十円をかじり家路についたことが忘れられない。(牛島から通学していた。)

さて、当時県の高校バレー界は県北勢のレベルが高く男子は大館鳳鳴に能代南、能代工が三強で全国レベルの実力を誇っていた。これに続くのが秋田南、金足農、秋田工の中央勢で仲々県北勢を破るのは至難で、一、二年の頃はベスト8止まりであったと記憶している。

三年生の秋、国体予選を兼ねた県民大会で三強の一角、能代南と対戦。2対1で破りやっと念願を果たすことができた。しかし準決勝で大館鳳鳴の壁は厚く惜敗、結果は三位だった。

その鳳鳴はレシーブが固く、また長身アタッカーを揃え、左右どこからでも攻撃してくるバランスのとれた素晴らしいチームで、全国制覇している。

卒業して一、二年は後輩との繋がりもあり母校を訪れる機会もあったが、それ以来会社勤務の都合でぶつりと途切れていたが、五、六年前、スポーツ紙で春の高校バレー全国大会の記事に秋田工の文字を見つけ、試合当日代々木体育館へ出向き、陰ながら応援。後輩のファイト溢れる試合振りを見て、秋工バレーの伝統が脈々と継承されていることに感動を覚えた。全国制覇の夢をいつの日か達成してくれることを期待している。

卒業して四十数年、目を閉じると秋工時代を思い出す。これからも東京秋工会を通じて母校との絆を強く持ち続けたいものである。

〈特別寄稿〉

## ■ 秋工ラグビー部の健闘を祈る ■

高田 司 (44 M)

NECラグビー部監督

この時期になると秋田工業という名前がやたらと気になる。今年の花園は大丈夫なのだろうか？ 他チームはどうなのだろうか？ 思わず電話に手が伸びてしまう。このような思いの同窓会の先輩、ラグビー部のOBが全国に何百人といることでしょう。

私が秋工で初めてジャージを着た時は無我夢中というか、何も考える余裕がなかった。佐忠先生、伊藤先生、小林先輩を始め諸先輩の指導を守り、厳しい練習を耐えれば間違いなく強くなれたからです。

今考えるとその当時の先生、先輩達の指導システムは、高校ラグビー界のトップレベルだったと思う。

現在、日本そして世界は狭くなっており、情報が直ちに伝わる社会になっているし、世の中も目覚ましく変わっている。そしてラグビーを取り巻く環境も変わって来ている。が、しかしいつの世であっても変わらない「原理・原則」というものが存在していると思う。ラグビーにも原理・原則があると思う。

その原理・原則とは何か？ それはNZ、豪州、英国等世界のどこへ行っても通用する「偉大なる常識」だと思う。常識は言葉を変えれば「当たり前」ということになる。(但し、チームや個人によつ常識のレベルは異なるが)

そしてこの当たりのプレー (Do Play) と、当たり前ではないプレー (Don't Play) を判断する基準が必要なのだと思う。

今振り返ってみると、秋工時代の指導者の方達はこの判断基準 (スタンダード) が明確だったと思う。二重基準 (ダブルスタンダード) さらには多重基準 (マルチダブルスタンダード) は余計であり、判断基準は明確であることが最も重要なのだと思う。

この基準を作り、これに則した練習方法を用いてプレーヤーに練習させ、体力をジャストフィットさせ、ゲームプランをプレーヤーの能力と一致させ、「思考能力」を身につけさせ、激しいプレーとそして秋田県民の粘り強い県民性を発揮することができたら、日本一も奪回できるだろう。

指導者の先生そしてコーチの方をお願いしたいのは、早く自分達が納得できるそして自信の持てる基準を作り、練習方法をマスターし、フィットネスプログラムを作り、そして生徒達に頑張らせて欲しいということ。

それが新しい伝統とシステムになり、全国に秋工という名前を再び復活させるための最短の道だと思う。 健闘を祈ります。

〈寄稿エッセイ〉

## ■ サムライのH君 ■

笹 渕 茂 (21 Y)

イニシャルで表すと鉛筆の硬度記号みたいな呼称になってしまうが、

彼の名はH君。H君は秋田市出身で、そのご先祖様は、

秋田藩主・佐竹氏に仕えたれっきとした重臣。

彼にはその誇り高き末孫の血が脈々と流れていた。

それは音楽の時間だった。

S先生がオルガンを弾いているとき、後列のほうでひそひそ話を始めた生徒がいた。

「私語をやめなさい!」。先生のきついおしかり。

しかし、二、三分たったころまたまた話し声。

S先生は、とうとう怒りだした。「今話したのはだれだ! 立て!」

音楽は講堂に座っての授業だった。ぶぜんとして立ち上がったのはH君。

S先生は、神経質を"二乗"したみたいな人だった。

虫の居所が悪いときは突然、自分の授業を放棄して、

さっさと職員室に帰ることもあった。

H君にとって相手が悪い。だれしもそう思ってたかたずをのんだ。

「話は一人でできるものではないですよ。相手がいるからこそできたんです。

立ったのは僕ですが・・・」

彼の釈明をいっさい聞こうとしないS先生。

「なんだその態度は!」。

S先生はそう叫びながらH君の胸ぐらをつまもうとした。

その瞬間、H君は講堂の板の間に仰向けになった。

そして、両足で先生を踏み付けるように、

ばたばたさせながらS先生に抵抗した。

これでは先生もS君の胸ぐらを取るところではない。

S先生が声高に叫んだ。

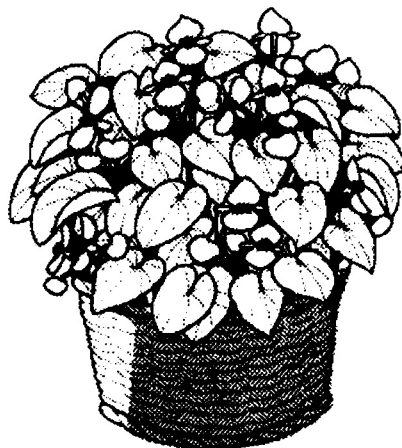
「お前! 先生を踏むとは何事だ!

職員会議にかかってもよいのか!」

顔に青筋をたてての激怒だ。

これは大変なことになったぞ。

ひょっとしたらH君、退学させられるかもしれない。



みんなの顔が青くなった。

H君にかかってはほとんど先生は、「へのカッパ」みたいなものだった。

それらの先生の先祖は、多分にH君のご先祖の家来だったのだ。

家来に頭を下げるバカがいるか！彼の発想は単純明快なのである。

翌朝の一時間めに担任のK先生が教室に入ってきた。

「H、昨日はたいそうな振る舞いをしたそうだな。

エーエ、(いいよ、いいよの意味)

心配するな。先生がちゃんとケリつけてやるから」

笑いながら、穏やかに話されたK先生。

意外な展開にクラスのみんなどもほっとした。

このK先生は、まことに人情味あふれた方だった。

いつも生徒の立場にたってものごとを考える先生だった。

先生の担当教科は、国語と東洋歴史。わたしたちも先生からそれを教わった。

ある日の放課後、他のクラスとラグビーの試合をやることになった。

「笹淵、この次のK先生の時間を、ラグビーの練習にしたいからと、先生に交渉してくれ」。

みんなから言われるままにお願いに臨んだ。

K先生は、たぶん今ごろは小使い室で、

小使いさんと一緒にお茶を飲んでいるはずだという。

みんなの言うように確かに、そこでお茶をのんでいたK先生。

交渉は意外と簡単に済んだ。

案ずるより生むがやすいとはこのことかと思ったほどだった。

ゆっくりと、相手を抱擁するように話されたK先生。

「エーエ、負けないようにがんばれよ」

この"エーエ"の響きがわたしにとっては、なんとも快かった。



## ■ 異色の先輩を訪ねて ■

8月2日午後2時45分西武新宿線鷺宮駅、今年の夏を象徴するような暑さの中、約束の時間にはまだ15分ほど余裕がありましたが、先輩は既に待っていてくださいました。

お訪ねした相手は「森幹太さん」。この名前を聞いただけでお分かりの方が多くいらっしゃると思います。名前にはピンと来ない方でも、写真の顔を見ればお分かりになることでしょう。

そうです、テレビの時代劇等で重要な役を演じていらっしゃる俳優さんなのです。本来は舞台中心の活動を大切にいらっしゃいます。

本名：鈴木 威（昭16 採鉱科 卒） 劇団「銅鑼(どら)」代表

森さんが秋工を卒業されたのは、昭和16年の12月。ちょうど太平洋戦争が始まった時でした。以後昭和18年までの期間、秋工名簿では12月が卒業の月となっています。理由は分からないのですが、戦争が影響したことは確かなようです。ですから本来ですと森さんは昭和17年3月の卒業だったわけです。

卒業前森さんは就職が既に決まっていた、満州に行く予定だったとか。しかし先生の勧めがあり、秋田鉱専(現秋田大学)に進学されたそうです。

この辺のお話を伺っている時はまだ、役者になられたきっかけは何も見えませんが、その頃生まれて初めて文学座の秋田公演を見て感動されたということをお聞きしました。

それから秋田鉱専時代に仲よくされていた友人がいらっしゃる、その方が後々役者になるきっかけづくりに一役買うことになります。

鉱専卒業後、静岡の天然ガスという会社に就職されたそうです。その時のお話しで面白かったのは、その会社の親のそのまた上の親会社が酒造会社で、何と給料の半分がお酒で支払われたというのです。お金が足りない場合は、飲み屋にそのお酒を売りに行ったそうです。

その静岡時代のある日、先に紹介した鉱専時代の友人が訪ねて来られ、お二人で色々話合ったようです。そして友人の方が「俺はこれから絵をやる。お前も何かやれ。」と言ったそうです。その時森さんは、なぜか秋田で初めて見て感動した文学座の劇を思いだし、そして「じゃあ俺は演劇をやる。」と宣言したそうです。ちなみにこのご友人は、小角又次という方で水彩を主とした絵で知られる画家として活躍されています。

さて、驚いたのはその後の森さんの実行力です。それからしばらくして森さんは何のあてもないまま役者になるために上京したのです。そしてまず最初にしたことは、三越劇場のチケットを何日か分通しで買い、とにかく演劇を徹底的に見ることにしたそうです。

そして一番最後に見た公演の時、文化座が新人を募集していることを知り、応募することにしたのです。ここで森さんはいわば運命的とっていい出会いをしたのです。(ご本人はこういう言い方はしませんでした。)

佐々木たかし氏(名前の漢字がどういう字かわかりませんので平仮名で書かせていただきます。)との出会いです。佐々木氏のごことは、女優佐々木愛さんのお父さんといえお分かりになる方が多いと思いますが、著名な演出家であり、秋田商業出身の方です。



役者としては何の下地もない森さんでしたが、佐々木さんと同じ秋田の出身ということもあって入ることができたそうです。

これから以降が森さんの役者人生ということになるわけですが、紙面の都合上その辺はお伝えすることはできませんが、お話しを伺っていてこの佐々木さんとの出会いが森さんの役者人生で大きなウエイトを占めていると言えます。なぜなら、森さんの舞台における出世作である「炎の人」(ゴッホ)は、この出会いがなければ生まれなかったわけですから。

現在森さんは、劇団「銅鑼」を主催されています。失礼な言い方かもしれませんが、経済的には決して恵まれているとは言えない状態のようです。でもご自分の意志で選んだ道をご自分が納得いくように歩んでこられたという自信をお話しの中にありありと感ずることができ、一つの理想的な生き方を垣間見せていただいた気がしました。それと、森さんの中にはやはり私達と同じ(おこがましい言い方ですが)秋田県人の血、そして秋田工業で培われた精神が宿っているんだということを感じました。(理屈ではなく)

森さんは3年程前に奥様がお亡くなりになって気落ちしたことや、ご自身も病気をなされて元気がでなかったことなどもお話ししてくれました。そして年令的なことなども……。

秋田工業出身者としては異色な存在である森さん。森さんには100才まで役者であってほしい。そして我々後輩があの人俺の先輩だぞと人に自慢できるよういつまでも頑張ってもらいたい。わがままな言い方かもしれませんが、どうか頑張ってください。

森さんは時間が許せば今度の総会に出席して下さるそうです。もし機会がありましたらこの紙面で書けなかったことなどを、会員の皆さん自身でお聞きになってはいかがでしょうか。

●森 幹太さん主催の劇団「銅鑼」の公演等にご興味がおありの方は下記へお問い合わせ下さい。

劇団「銅鑼(どら)」 〒175 東京都板橋区成増 5-1-2 米丸ビル TEL: 03-5997-9461 (代)

森 幹太さんが出演される秋田が題材の芝居「貞子」が今年の12月から来年の1月にかけて、秋田と東京で上演されます。主演は秋田北高出身の浅利 香津代さんです。秋田弁で演じられる芝居であるため、東京公演には一人でも多く秋田出身の方に来て欲しいとの浅利さんと森さんの希望でした。我々東京秋工会としてもぜひ応援してさしあげたいと思いますので、以下の概要をご覧の上、ご興味のある方はぜひお出かけくださいますようお願いいたします。

劇名 「貞子(さだこ)」 この芝居は、戦前に民謡「秋田おばこ」をレコード化し60万枚という驚異的な売れ行きで、秋田おばこを一躍世に広めた佐藤貞子の半生を描いたものです。

出演者 佐藤貞子・浅利 香津代 貞子の夫金一郎・森 幹太  
毛内幸声・浜田 光夫 丸 玉・高橋 長英

スタッフ等 この劇のプロデューサーは、森さんの弟さんの鈴木 潔さんです。その他秋田出身の方が多数スタッフとして参加されています。

公演日 秋田 12/2 大館 12/3 鷹巣 12/5 能代 12/6  
本荘 12/8 湯沢 12/11 秋田ふるさと村 12/12  
大曲 12/13 田沢湖 12/14  
東京(銀座博品館劇場) H.7.1/18~1/29

チケット等 チケット等の料金はまだ未定のようです。詳細についてお知りになりたい方は下記へお問い合わせください。

問合せ先 「貞子・民謡・秋田おばこ物語」製作本部  
〒104 東京都中央区築地3-7-8  
(株)プロデュースセンター内  
TEL: 03-3546-6834

「貞子」に主演される、浅利香津代さんの直筆メッセージです。

秋田工業の皆さんへ  
「貞子」に主演される、浅利香津代さんの直筆メッセージです。  
秋田工業の皆さんへ  
「貞子」に主演される、浅利香津代さんの直筆メッセージです。



## ■ 著書紹介 ■

“汗と涙のスクラム”「精魂尽して颯爽たり」 秋田魁新報社

佐藤 忠男 著  
(昭22 電気科卒)

秋工ラグビーに、コーチ、監督、部長として、また数年前までは校長として貢献して来られた佐藤忠男先生(佐忠(サッチュウ)先生という愛称の方がOB諸兄にはピンとくるかもしれない)が、秋工ラグビーの歴史を一冊の本にまとめられた。それがこの「精魂尽して颯爽たり」である。思うに我々秋工OBが母校を話の種にする時は必ずといっていい程ラグビーの話題が出てくる。曰く、今年はどうだろうか、花園に行けるだろうか、自分達の時はウンヌンカンヌンといった具合。とにかく秋工出身者同士であればこれが挨拶がわりなのである。この本は、そんな秋工OBにとって待ちに待った一冊といえるだろう。



「自動車シート技術のあゆみ」 樹芸書房

浦井 宗治 著  
(昭12 機械科卒)

自動車シートの専門メーカーである(株)タチエス(旧立川スプリング)を浦井さんは昨年退社された。浦井さんは知る人ぞ知る自動車シート技術のオーソリティー。

この本は自動車シート技術のあらゆるポイントを徹底的に、そしてきめ細かに紹介してくれている。このきめ細かさは浦井さんの人柄なのかもしれないと本を見てそう思った。そしてこの本はけっして自動車シートの技術者だけのものではない。紹介されている素材や製造方法、そして評価基準などは、製造・開発技術のあらゆる分野に共通して参考となるはずである。また自動車に興味のある人にとっては、専門的観点から自動車をとらえてみる事ができる本であるといえる。

技術者の方にはぜひ一読願いたいと思う。

自動車シート技術のあゆみ

浦井 宗治 著



樹芸書房



## ■ 編集後記 ■

ようやく会報第2号の制作が終わりました。今回は前よりは内容がある(?)ような気がします。しかし見てくださる皆さんが何と言うか、どう思ったださるかが一番問題ではありますが。

今回も時間のない中で原稿を書いてくださった先輩諸氏、また広告にご協力いただいた皆様には、本当に心から感謝いたします。

創刊号は会員の皆様におおむね好評いただきうれしく思っています。せっかく始めた会報ですからとにかく続けていきたいと思っています。

それには皆さんのご理解とご協力が必要です。できるだけ色々な方にこの会報に参加していただきたいと思うのですが、私も仕事の合間にやっているだけになかなか思うように進めていくことができません。本当は私の方から皆さんの所におじゃましてお話しを聞いたりすればいいのですが、そうも参りません。ただ皆さんの方からお声をかけていただければ時間を調整して伺うつもりであります。

今回の記事の中で、「異色の先輩を訪ね」というコーナーを設けましたが、あれも偶然ある会で森幹太先輩ゆかりの人と出会い、それではということで実現したことでした。次回も、同様のコーナーを設けるつもりでいます。もしもこんな人がいるぞというようなことがありましたら、自薦他薦は問いませんのでどうかご協力いただきたく思います。また、趣味や特技等で自慢できる方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

これは次号の予定の話になりますが、我が秋工同窓生で「良寛さん」をライフワーク的に調べていらっしゃる方がいて、その方に次号では原稿を書いていただこうと考えています。どういう方は次号のお楽しみということにしておきます。

皆さんもちろんご承知のことと思いますが、本年は母校創立90周年です。この90年の中には皆さんそれぞれが過ごされた時代も入っているわけです。母校というものの懐の広さみたいなものを感じるのには私だけでしょうか。数多くの先輩諸兄からみれば、私はまだまだ弱輩であります。その私になまいきにもこうして文章を書き、皆さんに読んでいただくわけです。これも母校を同じくする同窓生だからこそできることと思うのです。

とにかく、この会報を長く続けていくよう頑張りたいと思います。またそれにはくどいようですが皆さんのご支援が絶対条件です。何卒記事及び企画、また広告についてのご協力をお願いいたします。そして、会の運営をより活発なものにしていくための基となる会費につきましてもよろしく願いいたします。

最後に、9月9日は平成6年度の東京秋工会総会です。会があつての会報でありますから総会への出席につきましても合わせてお願いいたします。一度でいいですから(ほんとは一度だけじゃ困りますが)会場を埋めつくすだけの同窓生を集めてみたいと、幹事一同思っております。

お願いすることばかりで申し訳ございませんが、この辺で終わらせていただきます。ありがとうございました。

船木 一美 (48M)

企画・記事・広告等についての連絡先

東京秋工会会報制作室・企画室

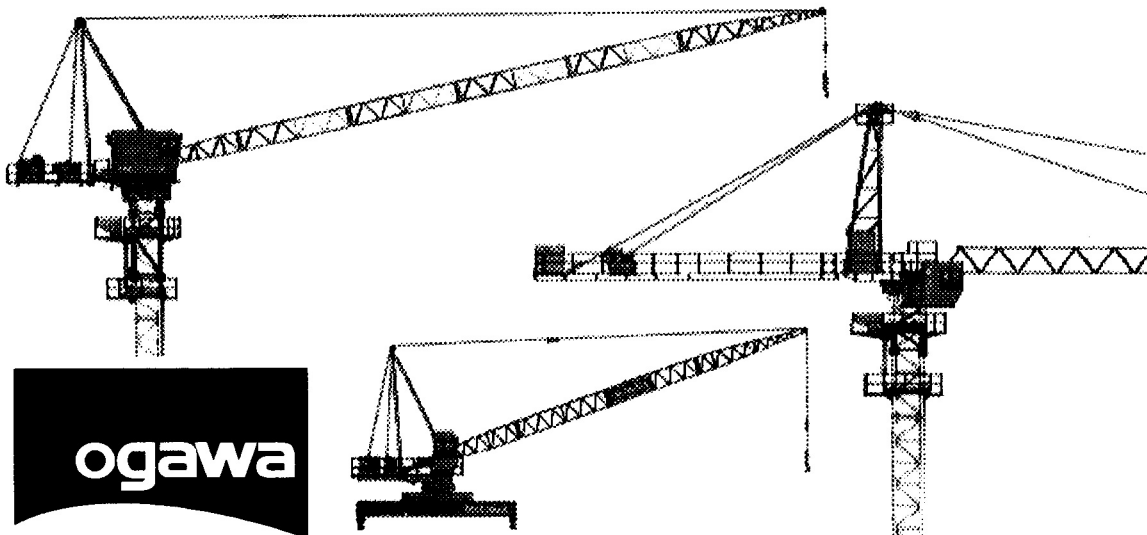
〒150 東京都渋谷区鶯谷町7-7 O.Hビル 301

(有)ティー・ピー・オー内(担当:船木)

TEL: 03-5489-5024 FAX: 03-3770-0077

※次ページには賛助広告が掲載されています。広告には会社の案内とそこに所属する同窓生の氏名、卒業年次、科名が記載されていますので、情報源としてご利用ください。また、掲載のご希望がある場合は左記へご連絡ください。

# タワークレーンの ogawa



株式会社小川製作所 代表取締役専務 川端(林) 邦夫  
 小川リース株式会社 代表取締役社長 (昭31 機械科卒)

本社/千葉県松戸市松戸新田 435-13 小川ビル TEL: 0473-65-3211(代) FAX: 0473-65-3273  
 工場/千葉県印旛郡白井町名内 330 第2白井工業団地内 TEL: 0474-97-0765 FAX: 0474-97-1039

時代が求める業務を  
 一層に展開しています。

## バブ日立工業株式会社

事業概要

電子機器部門・各種電子機器、装置の設計、製作、調整、工事等。  
 技術調査部門・各種プラント等の組成分析、物性測定及び材料調査、試験。  
 プリント部門・複写、印刷に関する企画から製作までの総合業務。  
 特殊加工部門・兵工場の設備を応用した各種特殊加工、製作。  
 その他・各種工事及びバブcock日立グループ各社などの製品販売。

本社 〒737 広島県呉市宝町5-3 TEL: 0823-21-3353(代)  
 東京営業所 〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビルバブcock日立(株)内  
 TEL: 03-3270-7437 FAX: 03-3242-0566

取締役所長 佐々木 武 (昭29 機械科卒)

## 大平産業株式会社

営業品目

- オイレスベアリング
- ボール、ローラー、ベアリング
- ニードルベアリング
- ボールネジ
- ピローブロック
- 油空圧機器及び装置
- 二硫化モリブデン系潤滑材
- その他工業機器及び用品

オイレス工業株式会社 代理店  
 光洋精工株式会社 代理店  
 タイキン工業株式会社 代理店  
 日本ヒーローフック製造株式会社 代理店  
 住鋳潤滑剤株式会社 代理店

本社/〒550 大阪市西区立売堀1-11-2  
 TEL: 06-541-0021(代) FAX: 06-531-5293  
 東京営業所/〒123 東京都足立区梅田6-16-11 サンハイツ1F  
 TEL: 03-3852-7101 FAX: 03-3852-7105

東京営業所所長 太田 晋 (昭31 機械科卒)

こころを育む環境づくりをめざして

## 不動建設株式会社

部長 小野 鉄雄 (昭38 土木科卒)

課長 鷲塚 勝幸 (昭39 土木科卒)

東京本社: 〒110 東京都台東区台東1-2-1  
 TEL: 03-3837-6066

## 創ing Tomorrow

明日がもっと豊かに輝くために  
 21世紀へ向けて創造的に前進する新井組  
 都市開発、リゾート開発、ベイエリア開発など  
 人にやさしい環境づくりをめざして  
 新たな可能性と取り組んでいます。

「創ing Tomorrow」— 人と技術で明日を創造します。

## 株式会社 新井組

本社 ●〒662 兵庫県西宮市池田町12-20 TEL: 0798-26-3111  
 東京本社 ●〒150 東京都渋谷区恵比寿4-3-3 TEL: 03-3442-8411

開発営業部副部長 三平 俊悦 (昭39 建築科卒)

豊富な総合技術で明日をめざす

■ 営業品目 ■

- 橋梁
- 建築鉄骨、鉄構造物
- 塔、煙類及圧力容器
- 荷役機械、運搬設備
- 鉱山、製鉄機械
- 土木・建設機械
- 公害防止機器
- 省力化、自動化機器
- 各種ブランド
- 鋳鋼品、ダクタイル鋳鉄
- アルミニウム合金鋳物
- 立体格納設備(ガス・トラック用)



株式会社 東北機械製作所

本社 / 秋田市茨島1-2-3 〒010 TEL:0188-62-5541(代)

鉄構機械事業部 / 秋田市茨島1-2-3 〒010 TEL:0188-62-5541(代)  
(茨島工場) FAX:0188-62-5626

マテリアル事業部 / 秋田市川尻若葉町6-1 〒010 TEL:0188-62-5271(代)  
(新川工場) FAX:0188-62-5295

向浜工場 / 秋田市向浜1-3-1 〒010-16  
(大型物組立)

東京支社 / 東京都千代田区丸の内1-9-1 鉄道会館9F 〒100  
TEL:03-3216-3951(代)  
担当:佐々木 昭夫(昭25 機械科卒) FAX:03-3287-0869

青森営業所 / 青森県青森市長島2-10-4 新藤ビル別館3F 〒030  
TEL:0177-22-5599  
FAX:0177-22-5599

取締役社長 佐藤 鈴男(昭30 採鉱科卒)  
専務取締役 村上 通郎(昭26 冶金科卒)  
\*秋工同家会東北機械支部長

澤木萬國特許事務所

内外国への特許, 実用新案, 意匠, 商標出願  
侵害事件についての相談・鑑定・調査

所長弁理士 澤木 誠一  
(昭26 電気科卒)  
弁理士 澤木 紀一

〒105 東京都港区虎ノ門1-18-1 第10森ビル8F  
TEL:03-3501-0937(代)  
FAX:03-3595-0059



情報・省力機器のメーカー & 総合商社

株式会社 ムサシ

〒104 東京都中央区銀座8-20-36  
TEL:03-3542-5611(大代表)

常務取締役 志賀 英一(昭31 工業科学科卒)



遠隔監視制御装置 道路情報装置  
計測器 端末機器

コウヨウシステム株式会社

代表取締役 高橋 陽之助(昭31 冶金科卒)

〒251 神奈川県藤沢市辻堂西海岸1-7-22  
TEL:0466-36-5501  
FAX:0466-36-7101



TKC コンピュータ会計

川口正明税理士事務所

税理士 川口 正明  
(昭42 電気科卒)

事務所: 〒105 東京都港区東新橋2-4-10 共同ビル5F  
TEL:03-3501-0937 FAX:03-3595-0059  
自宅: 〒211 神奈川県川崎市幸区宮川町82番地1  
TEL:044-555-5912 FAX:044-541-2353

クワイエタイプワークをトータルに  
サポートいたします。

プロダクトデザイナー  
代表取締役  
船木 一美  
(昭48 機械科卒)



有限会社 ティー・ピー・オー  
〒150 東京都渋谷区溝谷町7-7 O.Hビル301  
TEL:03-5489-5024  
TOTAL PLANNING OFFICE FAX:03-3770-0077

東京秋工会会報  
**KANASA**  
金 砂



**VOL. 2**

1994年8月15日発行

---

発 行	<b>東京秋工会本部・事務局</b> 東京都港区虎ノ門1-18-1 第10森ビル 8F 澤木萬國特許事務所内 電話：03-3501-0937
発行責任者	澤木 誠一 (東京秋工会会長/26E)
編集・制作	<b>東京秋工会会報制作室</b> 東京都渋谷区鶯谷町7-7 O.Hビル 301 (有)ティー・ピー・オー内 電話：03-5489-5024
制作管理責任者	斉藤 右二郎 (東京秋工会幹事長/26M)
編集・制作担当	舩木 一美 (東京秋工会幹事/48M)

---